

令和5年度 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究
分担研究報告書

糖尿病と認知症に関する研究

研究分担者 田村嘉章 東京都健康長寿医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科部長

研究要旨

糖尿病からみた場合の認知症の有無と重症度、併存疾患の管理状況についての実態調査、および糖尿病と認知症に関する論文検索を行い、「認知症者の糖尿病管理の手引き」を示す。

A. 研究目的

「認知症者の併存疾患管理の手引き」作成おこなう。また認知機能低下する糖尿病患者の特徴、その管理状況につき、実態調査を行う

B. 研究方法

糖尿病と認知症に関する論文をもとに、「手引き」作成おこなう。またフレイル外来通院中の糖尿病患者446名(平均79歳)に血糖管理状況を調査した。またMMSE \geq 24かつ縦断データがある250名に縦断研究も行った(平均観察期間1237日)。

MMSE \leq 23に低下したか否かでベースラインの比較を行った。またCox回帰で認知機能低下のリスク因子を同定した。

(倫理面への配慮)当院での日常臨床のデータに基づく調査であり、倫理的面の問題はないと判断する。

C. 研究結果

横断でMMSE \leq 23は13.0%で、年齢、HbA1c

が有意に高値。縦断で認知機能低下者は高齢($p=0.01$)、TUG時間延長、歩行速度低下、KCLおよびJ-CHS(変法)基準のフレイルが高頻だった(いずれも $p<0.01$)。

BLのHbA1cに差はなかった。TUG延長(≥ 9 s)、KCL、CHS変法フレイルはCox回帰で年齢、性、BLのMMSEを補正しても認知機能低下のリスクだった(いずれも $p<0.01$, HR 3.10, 2.25, 3.15)ガイドにおいて、糖尿病の項を執筆した。文献をもとに、認知症進展のリスク因子や認知症合併糖尿病患者の管理のポイントについて記した。

D. 考察

認知機能が低下しているものでは横断ではHbA1cが高いが、縦断では差がないことから、認知機能低下者における血糖管理状況を緩めている可能性が考えられる。

E. 結論

「手引き」を作成した。認知症高齢者

の血糖管理状況が明らかになった。高齢糖尿病患者において身体機能が低下しているものは、認知症の新規発症が多かった。

G. 研究発表

1. 論文発表

Katsumata Y, Toyoshima K, Tamura Y et al., Geriatrics Grrontol Int 2023 doi: 10.1111/ggi.

2. 学会発表

田村 嘉章 Management of Older Patients with Diabetes. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

2. 実用新案登録

3.その他 いずれもなし